

中野本郷小学校改築推進委員会 要 点 記 録

第 3 回

開 催 日 時	令和元年12月9日(月) 午前10時～11時30分	
開 催 場 所	中野本郷小学校 会議室	
出席者	委 員	深澤和夫、馬場光男、関正行、杉下文昭、齋藤明美、高野允雄、藤原義之、佐藤三千子、山崎由紀子、久保真由美、柳沢晶子、伊藤廣昭、塚本剛史 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校再編・地域連携係
	その他	子ども教育施設課
会 議 次 第	【議事】 1 校舎の建て替えの手法に係る検証結果について 2 新校舎の整備スケジュール(予定)について 3 その他	

第3回 中野本郷小学校改築推進委員会 会 議 要 旨

1 開会

委員長

定刻となったため、これより第3回推進委員会を開会する。傍聴希望者がいるため許可を諮りたい。傍聴について、これを許可してよろしいか。

—異議なし—

委員長

では傍聴者は、注意事項を遵守し議事の進行を妨げないようにお願いしたい。

2 議事

議事(1) 校舎建て替えの手法に係る検証結果について

委員長

「議事(1) 校舎の建て替えの手法に係る検証結果について」、事務局の説明を求める。
子ども教育施設課長

■資料「中野本郷小学校改築の校舎建て替え手法について」、子ども教育施設課長より説明

本日は、今年度、区から委託をしている設計会社から担当者2名が同席する。先日実施した区民との意見交換会の実施結果とともに、今後の進め方についてもあわせて報告する。

第2回推進委員会でも報告したとおり、旧向台小学校の仮校舎を使用する移転建て替え案と、現地の仮設校舎を使用する現地建て替え案の2種類の手法を検証し、その結果について意見交換会を行った。

意見交換会は10月30日（水）の夜と、11月4日（月）の2回実施し、各回11名ずつ参加いただいた。あわせてホームページでも意見を募り、メールを1件頂戴した。様々な意見をいただいたところだが、「3 意見交換会等で寄せられた主な質問・意見について」、一部を紹介する。

まず①、中野本郷小学校の校舎建て替えについては、当初の計画より旧向台小学校を仮校舎とすることが示されていた中で、なぜ今さら現地建て替え案を検証したのか、という質問をいただいた。確かに区の計画の中では、建て替えを進めるにあたり、旧向台小学校の仮校舎を使用するという方向性が示されていたが、現地建て替えをすることができないのか、検証を試みたところである。今回、同様の検証は、中野本郷小学校の他、桃園第二小学校でも行った。

②～⑦までは同じような内容で、仮に、校庭に仮設校舎を設置し、現地で校舎建て替えを行った場合、工期の延長や、グラウンドの使用制限の他、工事による騒音、粉塵等、さまざまな弊害が生じる。そのため、児童の学習環境としてどうなのか、といった不安の声が多数挙がった。仮設校舎を設置する場合、安全対策を最優先としながら、可能な限り学習環境も確保しつつ工事を進める。最大限の配慮、努力はしていくが、環境の悪化はどうしても生じてしまう部分かと思う。

⑧～⑪は、新校舎の建て替えに際し、旧向台小学校の仮校舎に通う場合でも2年以上の工期が見込まれることから、極力、工事期間を短縮できないのか、というご意見があった。これからプランづくりを確定していく中で、工期そのものも見えてくるかと思うが、コストや児童への影響を抑えるという意味でも、最大限、工期短縮を図っていきたい。

⑫以降では、旧向台小学校の仮校舎に通う場合、特に通学の安全対策や負担軽減に関して、区としてどのように考えていくのか、という意見があった。具体的には、スクールバスの運用や、桃花小学校への指定校変更の考え方についてである。スクールバスや指定校変更の考え方については、今後も課題の整理が必要となるが、引き続きしっかりと検討を進めていきたい。

こうした意見交換会等を実施したうえで、校舎の建て替え手法及び今後の予定については、資料の1枚目「2 校舎の建て替え手法及び今後の予定」をご覧ください。中野本郷小学校の建て替えにおいては、当初の予定通り、旧向台小学校を仮校舎として使用することとし、仮校舎への通学の負担軽減策及び安全対策については、引き続き検討を行う。今後作成する予定の新校舎整備の基本構想・基本計画（案）については、次回の推進委員会で報告したい。

推進委員会での意見や、今後実施する区民との意見交換会での意見等を踏まえ、今年度末までに基本構想・基本計画の策定を目指していきたい。

委員長

今の説明について、何か質問はあるか。

委員

こういった学校の改築は中野本郷小学校が初めてか。

子ども教育施設課長

統合によらない学校の建て替えは、今回初めてである。

委員

意見交換会の参加者が各回11名ということで、この人数が多いのか少ないのかわからないが、例えば、小中学校が統合した際には、こういった意見交換会等をしていると思う。その時の参加者はどのくらいいたのか。

子ども教育施設課長

平日と休日の計2回実施し、参加者はおおむね10名～20名というのが過去の例である。今

回、桃園第二小学校の建て替え方針についても、ほぼ同じ時期に同じような意見交換会を実施したが、こちらには40名ほどの参加者がいた。

委員

イメージとして少ないような気がするため、ただ意見を聞いたというだけで終わってしまうのか。他のいろいろな意見を持たれている方がいると思われるが、その辺をどう考えているのか。
子ども教育施設課長

当然、この場に来られなかった方もいると思う。この意見交換会だけでなく、少なくとも中野本郷小学校の在校生の方々や、これから入学する予定の未就学児の方々等には、引き続き、しっかりと情報提供を行っていきたい。この意見交換会の場に限らず、例えば、電話やメールでも随時意見をいただきたいと思います。今後も丁寧に進めていききたい。

委員

10名ぐらいでは少ないと思う。

委員

私は10月30日の意見交換会に出席しており、推進委員からはもう一人出席している。また、区議が2人いたが、発言はしていない。保護者等は7名いたが、その7名からは意見が結構出たものの、やはり参加人数が少ないと感じた。それは、意見交換会のお知らせを貼っていない掲示板が多数あったり、関心のありそうな近隣の幼稚園等に貼っていなかったため、知らなかったという人が多かったのかなと思う。

委員

娘が杉並区の幼稚園に通っているが、その幼稚園には、中野本郷小学校の学区域の子どももたくさんいるため、幼稚園にお願いして貼り紙をさせてもらった。中野区にはお知らせを出したようだが、杉並区等の近隣のそういう幼稚園には出されていなかったようなので、それもあって、参加者が少なかったのかなと思う。

また、この前、委員と話していて思ったのは、区内の児童館や未就学児が保護者が集まる場所、小学校等に保護者の意見をその都度入れられるような意見箱等を置くのはどうか。回収した意見は推進委員会で開き、意見交換会に来られなかった方などが気軽に自分の考えや質問を入れられるといいのかなと思った。

子ども教育施設課長

今回、桃園第二小学校と同じような周知の仕方、参加人数の差が顕著に出たというのは、桃園第二小学校の方が皆さんの関心があったというだけではないとは思っている。今後も、他の学校でも建て替えする際には皆さんの耳に入るようにお知らせしていきたい。引き続き、今の委員からのアイデアも含め、やり方をよく考えていきたい。

委員長

それでは、次に「議事（2）新校舎整備の基本的な考え方について」、子ども教育施設課長の説明を求める。

議事（2）新校舎整備の基本的な考え方について

子ども教育施設課長

■資料「新校舎等整備の基本的な考え方」について、子ども教育施設課長より説明

新校舎を整備するにあたり、来年度以降から設計作業を本格的に進めていくところである。中野区教育委員会の考える小学校校舎の整備における基本的な考え方について、計画の中での位置づけを紹介をしたい。

まず、1ページ目の「1 中野区における構想・計画等」だが、中野区にはさまざまな計画等がある。中野区基本構想の「新しい中野をつくる10カ年計画」は、区政全体の根本理念であり、その中で、「自ら学び可能性を拓く子どもが育つまち」として、子どもの教育環境の考え方が示されている。また、「学びと文化を創造・発信するまち」では、学校と連携した読書活動の推進とい

うことで、地域開放型学校図書館の整備を挙げている。中野区では、中野区基本構想と10カ年計画に関して、まさしく今、改定作業を行っている最中である。この考え方が大きく変わるかどうかはわからないが、新しい基本構想は来年度示されていくため、あくまでもこれは現時点における基本構想の考え方である。「中野区教育ビジョン（第3次）」の教育理念は、資料のとおりである。

「中野区立小中学校施設整備計画」については、第1回目の推進委員会においても紹介したが、その計画の中では、小中学校のこれからの施設整備の考え方が示されている。学校の持つ役割、学習空間としての学校、生活空間としての学校、健康・体力を増進する学校、地域コミュニティ施設としての学校、こうしたところを考えながら改築を行っていく。

「2 新校舎等の整備にあたっての基本方針」では、地域活動の拠点となる施設や、効率的効果的な施設整備、これからの教育環境・社会状況の変化に柔軟に対応できるような学校施設の整備、安全で安心な施設環境の確保、という方向性が定められている。

次のページでは、今説明した基本理念をもとに、具体的なことを示しているのので、その概要を紹介したいと思う。「3 新校舎等の整備にあたっての具体的事項」の(1)多様な学習環境を可能にし、地域活動の拠点となる施設の整備の1点目に挙げているのが、「一足制」の話である。第1回推進委員会でも簡単に紹介したが、今後の小学校、中学校では、学校施設の中は上履きを用いず、いわゆる外履きの一足で教室の中で授業を受けたり、そのまま校庭にも飛び出していける、といった活動の進め方を考えている。一足制とは言っても、体育館だけは砂などを引き込んでしまうと傷がつきやすくなってしまうので、体育館履きを活用いただきたいと考えている。それ以外は児童・生徒はもちろん、地域の方も土足のまま、地域にある病院や、区役所、図書館等と同じようなイメージで活用していただければというところである。

2点目、新校舎には地域開放型学校図書館、学童クラブを含め、キッズ・プラザ、こうしたものを学校の中に併設していきたいと計画している。地域開放型学校図書館は、まだ運用を開始している学校がないため、なかなかイメージがつきにくいと思うが、来年の夏以降開校する美鳩小学校とみなみの小学校の中にも、この地域開放型学校図書館が整備されていく。実際に運用の形も見ながら、イメージをしていただければと考えている。キッズ・プラザは、放課後、児童が学校の敷地内にあるキッズ・プラザにそのまま行くことで、学校のグラウンドや体育館も使うことができる、といった放課後の居場所づくりとして考えている。現在、谷戸小学校は敷地内にキッズ・プラザがある他、桃花小学校にもキッズ・プラザが併設されている。そういうイメージで運営をしていきたいと考えている。

その他、3点目では防災機能の強化や、4点目では多様な学習形態に対応できる施設ということで、各教室、学級ごとの教室の他、例えば、学年みんなで活動する、あるいは小さなグループで活動できる、といった様々な学習形態に対応できる空間づくりをしていきたいと考えている。

5点目には、中野本郷小学校の特徴でもあるグリーンガーデンをしっかりと残していきながら、そこへのアプローチも工夫をし、学習環境に寄与できるような施設づくりを考えていきたいと考えている。

(2) 効率的効果的な施設配置や施設設備の共同化では、例えば、普段あまり使われない部屋をつくらない、よく使う部屋を学校の一番端に持っていかない等、どの部屋も効率的効果的に使えるような施設配置をしっかりと考えていきたい。学校長や職員の皆さんとも意見交換しながら、細かい部分を詰めていきたい。

(3) 今後の教育環境や社会状況の変化に対応できる学校施設の整備だが、これからの教育環境というのは、特にICTのことである。すごい勢いで変化をしているので、なかなか我々としても決めにくい部分ではある。例えば、今最新式のモニターをつけたといっても、それは5年後には一気にモニターという考え方自体ががらっと変わってしまう可能性もある。当然、パソコンやiPadといった技術も今後、ますます進んではいくが、それも10年、20年経ってしまうと教育そのもののあり方というものも大きく変わってしまう可能性もある。なかなか今の時点で先々まで全て見据えるということはほぼ不可能だが、極力そういった将来の環境変化にも対応で

きるような視点も持ちながら、環境整備を進めたい。ここで、特に3点目にある、改築の経費や後年度負担（ライフサイクルコスト）の縮減も見据えた維持管理しやすい施設づくりを行う。学校建築というのは、建てる時も非常にコストがかかるが、維持をしていくにも非常にコストがかかる。最近だと、冷暖房を各部屋に整備したが、今後は、体育館にも整備していくため、そうしたところでも電気代が非常にかかる。新しい学校ともなると、これまでの既存の学校と比べて、電気代、光熱水費が非常に高くなる。そのため、できる限り省エネになるような考え方もしっかりと取り入れていきたい。（4）快適で安全かつ安心な施設環境の確保ということで、児童の安全性は最優先事項である。この施設設備の中で、確保できる安全対策は最大限、取り入れていく。ソフト対策の部分も含めて、しっかりと安全対策を構築していきたい。

4ページ、5ページは、今後具体的に学校を設計していく中での建築上の規制について示している。この地域では4階建てまでは建てられると想定をしている。日影規制や、北側斜線規制、近隣の方への配慮等を考慮しながら施設設備をする必要があるため、そうした中でも最大限に効率の良い施設配置を考えていきたい。

6ページは用途地域についてだが、中野本郷小学校のエリアは第一種中高層住居専用地域であり、中野区内においては、この黄緑のゾーンが住宅が建つ地域という位置づけである。中野区の中では、南部だと比較的3階建てや4階建てが建てやすいエリアとなる。北の鷺宮や若宮の地域だと低層地域になるため、最大でも3階建てまで等、より高さが抑えられてしまう。美鳩小学校は今、建て替えをしているが、4階建てが建てられないため、3階建てで、高さ10メートルまでしか建てられない状況である。そこと比較すると、中野本郷小学校の地域は、北側斜線等もクリアする必要はあるが、最大で15メートル、4階建てまでは建てられる高さ制限となっている。

7ページ、8ページには、新しい校舎の施設配置イメージを示しているが、次回以降、必要な校舎の規模を踏まえて、基本的な教室の配置等をまた紹介していきたい。

7ページ、8ページの施設配置図は、前回もご覧いただいている図面だが、プールを屋上に設置する、体育館を2階部分に設置する、というように、少しでもグラウンドを広くとれるようにという考え方である。それでも現在の校舎よりは、だいぶ規模が大きくなる。地域開放型学校図書館や、キッズ・プラザ等も併設する他、今後、教室の大きさも現在の教室の大きさよりも一回り大きくするため、廊下も広くなり、一つ一つをゆとりのある計画としていく。そうした中で、建物全体の規模はどうしても大きくならざるを得ないと考えている。説明は以上である。

委員長

何か質問・意見はあるか。

委員

グラウンドは現状より広くなるということか。

子ども教育施設課長

極力広くはしたいとは思っている。7ページのとおり、グラウンドは120メートルトラックの6レーンを想定しており、今のグラウンドとほぼ同じぐらいの広さである。ただし、今よりも広くするというのは結構厳しい。今、外に設置しているプールは、新校舎の屋上に配置する予定である。プールはなくなるが、グラウンドはだいたい今のグラウンドと大きさ同じぐらいという想定である。

委員

3,000㎡ぐらいはあるということか。

子ども教育施設課長

資料で示しているように、約3,050㎡である。グラウンドは人工芝で整備をする。

委員

全面人工芝か。

子ども教育施設課長

端の方はタイル敷きというか、インターロッキング敷きになっており、例えば、避難所運営す

る時に、煮炊きで火が使えるような場所等は整備する。

委員

エレベーターはつくのか。また、屋上まで行けるのか。

子ども教育施設課長

屋上まで行くかどうかは別だが、4階までは確実に行く。普段の学校生活の中で、児童がエレベーターを使って昇り降りすることはしないと思うが、バリアフリー対応という意味でエレベーターを設置する。

委員

児童の入り口と地域開放の入り口はあるが、学校に少し用がある方の入り口はあるのか。同じ位置か、それとも違うところになるのか。

子ども教育施設課長

細かい部分はこれからなので、今の時点でここだということはお知らせできない。例えば、地域開放型学校図書館は、地域の方が誰でも出入りできるような入り口になるため、当然、学校の入り口とは明確に分ける必要があると思う。そうした考え方の中で整理していく。

委員

今日ここに来るとき、学校の裏のどこから入るのだろうという状態だったため、学校に用がある方はこちらからと、わかりやすくしてもらえるといいのかなと思った。

委員

これはもう決まりということでもいいのか。細かいことは、いろいろあると思うが、だいたい4階まで建てよう、屋上にプールをもってきて、ここを体育館にするとか、そういうおおまかなところはもう決まったということか。

子ども教育施設課長

決まったというよりは、このような形しかとりようがないのかなというのが、現状の考えである。

委員

私は10月30日の意見交換会に参加したが、うちの主人が図面を見て、「プールのランニングコストはすごいのに、何でプールをつくるのか。今日は暑いから入れないとか、足がすごく熱くてやけどしそう等、そういう日があったり、雨が降ったら入れない。夏休みもあるし、1年で何回プールに入れるのか、というぐらいしか使わないプールに、ものすごいコストがかかる。そんなの要らないんじゃないか。」と言われて、どうなのかなと思った。中野本郷小学校の近くにある第二中学校は、プールに一年中入れるため、そこをうまく利用させてもらえないのか。その際、意見として言ったが、そんな意見がなかったかのように、もうこれは決まりなのか。今の意見を絶対通してとか、絶対良い意見だと言っているわけではないが、校舎のレイアウトや階数等、そういうものはもう決まったと受け止めた方がいいのか。

子ども教育施設課長

例えば、プールを設置するという考え方は、中野区立小中学校施設整備計画の中で決まっている。そのため、近くに第二中学校があるからという理由で、中野本郷小学校だけプールを設置しないという想定は最初からしていない。今後の教育環境の大きな変化の中で、中野区立小中学校施設整備計画を改めて考えていく時に、そういう議論についても考えていきたい。そのため、一つの学校の中で、プールをつくる、つくらない、という議論の仕方は想定していない。

例えば、4階建てではなく、3階建てにしたい等、そうした意見が出せないかということについては、そこは意見を言っていただいて結構である。そこから先は現実的に判断して、3階建てだと想定している部屋が全部入り切らない等、説明をしていきたい。

決まっているかどうかで言うてしまうと、決まるのはこれからだが、例えば、4階建てが3階建てになり得るかという問い合わせに関しては、正直、難しいというところである。

委員

何が一番望まれて、良いと思う内容かまだわからないが、例えば、図書館がすごく充実してい

るとか、第二中学校みたいに体育館に床暖があれば、式典の時に寒い思いをしなく良いとか、もっと立派な体育施設があるとか、また別の観点から検討することもあると思う。絶対プールをなくしてほしいというわけでもないが、1年に何回かしか入らないプールにランニングコストをかけるのか。防災のためと言っているが、屋上に水があったところで本当に非常時に使えるのか。防災のためにもプールの水が要るというのではないと思う。プールの代わりに、中野本郷小学校にしかないような設備についてアンケートをとって、いろいろな意見を出してもらったら、夢があると思った。

子ども教育施設課長

当然、意見はいただきたい。例えば、先ほど提案をされた床暖など、保護者や地域の皆さんが絶対整備してほしいという意見が出た部分については、当然考えていきたい。

ただ、やはり全体的なバランスとして、他の学校にはない特徴でありつつも、あまり不公平になってしまうのも難しいところではあるため、そういったところは理解いただければと思う。

委員

話を戻してしまって申し訳ないが、そもそも、中野本郷小学校を建て替える時に、どういう学校にしようかという構想等はなかったのか。例えば、今は少子化だし、区内の学校は統廃合もしているし、中野本郷小学校から近くの桃花小学校に指定校変更してしまう児童もいる。私立の小・中学校もたくさんあり、そうすると子どもの取り合いになってくると思う。

また、保護者の多くは共働きのため、児童が学校から早く帰ってきてしまうと、家で1人で鍵っ子になってしまうため、長時間、学校や学校の近所にきちんと守ってもらえると安心である。

私立であれば、学校の特色についてお金をかけられるので、希望者には通ってもらうことができるが、区立だから待っていれば人が来るという時代ではないと思う。

改築にあたって、はるばる遠くから通うというデメリットがあっても、その代わりにこういうメリットがあるんだということであれば、みんな納得して建て替えしていけると思うが、中野本郷小学校はこういう特色があって、こういう学校であるというビジョンがないと、どんどん中野本郷小学校に通う人が減ってきてしまう。特色がある学校に行かせたいなと保護者が思えば、そこに通わせると思う。プールは、1回できたらそれをまた何年か後に建て替えることができるわけではないのだから。後のメンテナンス等も織り込んで、ある程度、こういう学校にしたいというビジョンのようなものがほしい。それには、近所の人や、指定校変更してくる児童も含めて、児童が楽しく通える、ということが一番重要だと思う。大人の考えではなくて、子どもの目線、それから通わせる保護者の目線に立ってもらって考えてほしい。あとは、グリーンガーデン等、中野本郷小学校の特色のある面をもっと積極的にPRすると良い。「はい、できました」「はい、集まってください」という方法ではなくて、「こういう構想でこういう学校をつくりたいのですよ。だからみんな通ってくださいね」という、その辺もあわせて示してもらえれば、我々も地域として納得できて、応援もしていけると思う。

委員

今後通われる保護者や、中野本郷小学校の校長先生がプールをなくしても良いとか、なくさない方が良いのかとか、そういうのは意見言えないのか。

子ども教育施設課長

プールの整備に関しては、それこそ教室自体に壁が要るのか要らないのかとか、体育館って本当に要るのか等、そういった話ぐらいの大きな話になるため、プールに関してはこのまま進めさせてほしい。ただ、それ以外の部分で、これからいろいろな意見を聞く場面は当然あってしかるべきだと思うので、プールだけは何とかご理解いただきたい。

また、保護者や児童にはアンケートをとった。次回、そのアンケート結果を報告したいと思っているが、「グリーンガーデンが大好きだ」とか「屋上もすごく気に入っている」とか、飼育小屋をもう少し日の当たるところにしたい等、細かい意見も含めて、いろいろな意見を聞いていると思っている。そうしたところもしっかり取り込めるところを取り込みつつ、この中野本郷小学校ならではの特色というものをしっかり位置づけしていきたい。

委員

地域の中で保護者の方に聞くと、中野本郷小学校を建て替えるということに対して、あまり皆さん興味を持っていないのか、「そうみたいです」という返事が返ってくるのだが、PTAの活動方針の中で、どういう形で皆さんに啓蒙していくのか教えてほしい。

委員

学校からも全生徒にプリントが配られ、10月30日と11月4日に学校の改築説明会があるので、そこに来てくださいという通知がきたので、どの保護者もみんな知っていた。問題は、幼稚園の児童たちがどこまでそれを知っているかなとは思ったのだが、学校近隣の幼稚園にもお知らせはしたのか。

子ども教育施設課長

全部の世帯にしっかり周知が回っているかどうかというのは難しいと思っている。ただ、前回、意見があったように、少なくとも近隣から少し幅を広げた範囲の幼稚園や保育園にはこれからしっかりとお知らせを回していきたい。それでも、杉並区のどこまでの範囲が良いのか等、一定程度決める必要は出てきてしまうと思っているので、最大限我々として周知できるところはしっかりしていきたい。あとは、保護者の方のコミュニケーションの中で、いろいろとお知らせいただけるとありがたい。

委員

前回の推進委員会で、掲示板にお知らせを貼ったということは聞いたが、中野区の掲示板でも貼られていないところもあったり、それぞれの町会の掲示板にも貼られていないところをちらほら見かけた記憶がある。区が直接貼ることが難しい場合でも、町会の方をお願いして貼ってもらうことが可能なら、多めに印刷して渡してほしい。町会の看板は結構あちこちあるので、何かしら目につくことが多いと思う。そうすると、中野区以外の他の幼稚園、保育園に通っている保護者の方の目にもつきやすいため、保護者としてはありがたいと思う。

関係者

新中野町会の者だが、第3回目で初めて出席する。新中野町会は、杉山公園を拠点とした町会だが、この町会には推進委員会の連絡が一切ない。PTAの方から直接電話があって、推進委員会があるので、ぜひ新中野町会さんの方に出してほしいという誘いがあり、今日初めて出席した。町会をどうやって考えて、連絡しているのか。うちの町会でも当然、中野本郷小学校に通っている児童がいる。その町会の役員、あるいはPTAの方、中野本郷小学校に通っている児童の保護者には連絡は入っていると思うが、私どもの町会には一切連絡がないというのはどういうことか。

あとは、教育委員会から、推進委員会の概要をまとめた緑色の紙を貼ってくださいというようなことだけ来た。私も中野本郷小学校出身だが、昔は青梅街道を境にして、こっち側は中野本郷小学校、向こう側は桃園第三小学校、というようなやり方で今までやっていたが、現在の範囲はどうなっているのか。新中野町会は遠いからいらぬという感じなのか。私どもは、1回目と2回目の推進委員会に出席していないから、今聞いていても子ども教育施設課長が何を言っているのか、さっぱりわからない。

事務局

今回、推進委員会を立ち上げるにあたり、中野本郷小学校の児童が多く通学している町会のエリアということで、鍋横の町会は四つの町会、弥生については、二つの町会を想定し、推薦をお願いした。

また、委員は区の教育委員会から委嘱をしているのだが、本件については、教育委員会で少し考えたうえで、改めて返事をさせていただきたい。

委員

本町通六丁目町会も、新中野町会と同じ条件だと思う。青梅街道の方から一部が来ている。

委員

本町通六丁目町会の方が一番中野本郷小学校から遠いため、一番問題意識が出てくるのではないかと。

事務局

学校の統合に際し立ち上げる統合委員会では、町会、PTA、校長から、各何名お願いしたいということで、推薦を依頼した経緯がある。今回、鍋横地区については、鍋横地区町会連合会長から、千代田町会、宮里町会、西町町会、鍋横町会の4町会ということで推薦があり、弥生地区については、弥生町二丁目と道玄町会の2町会の推薦があった。統合委員会では、町会、PTA、校長推薦、公募等、人数割で依頼していたため、それに基づいて推薦をお願いしたが、例えば、新中野町会や本町通六丁目町会についても追加という形で推薦があり、委員の委嘱が必要があれば、そこも含めて検討する。

委員

検討ではなく、入れるべきだと思う。入れないなら私も出ない。一番問題の地区が入っていないというのは、不思議だ。

委員

鍋横地区は6町会だから、基本だと思う。

委員長

途中で委員が増えても良いか。

事務局

そこも含めて確認する。

委員長

私の意見で言うてはいけないかもしれないが、これから通学距離について問題となる町会の新中野町会や本町通六丁目町会の会長に入ってもらった方が良いかなとは思う。

委員

委員会でそういう要望があったというので、教育委員会事務局内で検討してもらった方が良いのではないか。

委員長

よろしいか。

—異議なし—

委員

意見交換で質問のあったスクールバスについての答えが、課題と確認も含めて考えていきたいとある。それから1か月経ったが、進捗具合はどうか。

事務局

まだ十分に答えが出る状況にはなっていない。前にも話したかもしれないが、発着場所をどこにするか、エリアを回る形にするのか等、結論がまだ出ていない。もし、エリアを回る場合、警察との協議が必要であること、午前中だけでなく、午後の帰りも当然必要になってくる等、まだそれらの部分を確認している段階である。

関係者

途中で転校するという事は大丈夫か。

事務局

指定校変更については、要件がある。今意見が出たのは桃花小学校のエリアかと思うが、通学距離が指定校より近い場合等については、指定校変更を認めている。基本的に、新1年生を対象にやっていくのだが、一度、その指定校に行くと決めた場合には、6年間通学する仕組みになっている。

小学校については、本来の指定校より通学距離が短い小学校に指定校変更をすることが可能だが、中学校の場合には、本来の指定校に通うことになるため、ここのエリアだと第二中学校に通うことになる。

委員

主な意見の17番、スクールバスについては、移転前の令和3年頃にどうなるかを考えている

ということか。

事務局

予算も含めて考えていかななくてはいけない部分があるため、こんな形になるというのは想定をしていくが、最終的に詳細を決定するのはその頃を考えている。

委員

令和3年ということは、もうすぐ工事に入ってしまう。その頃になってスクールバスが出せないとしたら、もう歩いて通うしかなくなるということだと思う。今の時点で回答するのはまだ難しいとは思いますが、可能性はあるのか。

事務局

全くないわけではないが、いくつか課題があるため、その課題がクリアできないと運行できない。例えば、安全面や負担軽減を考えて実施したことが、かえって逆の結果になってしまうこともあるため、できるとは言い切れないが、選択肢の一つとして検討させていただきたい。

委員

スクールバスが運営できなかった場合、歩いて通うことが大変だから指定校を変えてほしいという話が出たら、指定校はもう変えられないのか。

事務局

現時点の指定校変更の考え方についてはそうである。

委員

そうになると選択肢がどんどん狭まってしまう。通えるかどうかかわからないが、スクールバスなしで徒歩30~40分かかる場合でも、指定校は変えられないとなると、新1年生、2年生には負担が大き過ぎると思う。

事務局

これまでの学校の統廃合の中で、距離を確認したところ、通学距離がここまで長距離になる例がそんなになかった。エリアの限定や学年を低学年とすること等は考えているが、そうしたことがどう形にできるか、できるだけ早急に結論が出せればとは考えている。いつ結論が出せるかは言えないが、エリア限定でやるとしたら、1年生あるいは2年生までの低学年かなと考えている。

委員

30日の意見交換会の時には、1年生、2年生には多分出せると思いうみみたいな発言があって、みんなそういうふうに理解したと思う。その時に、3年生の女の子を持つ保護者が「小学3年生くらいの子が通うとなると、大人の足で40分と言われた。毎日、田舎の景色の良いきれいな空気のところを歩くのではなくて、光化学スモッグが出るような空気の汚いところを、通おうと思ったら大人だって大変だと思う。だから、1年生、2年生とは言わず、もう少し範囲を広くしたうえで、バスが運行できるように検討をしてもらいたい。入学後の指定校変更を認めないことで、どれだけ桃花小学校に行く人が増えるのか。その期間だけ、本町通六丁目の端の人や、その周辺の人が桃花小学校に行き、中野本郷小学校の新校舎ができれば戻れるとすれば良いのではないか。工事が始まる前から、1年生、2年生、3年生と既に桃花小学校に行きしまっている人もいる。それを全部桃花小学校が引き受けようと思ったら、また工事をして校舎を増築しなければいけなくなる。その時期だけとか、ある程度、変わることができるようになれば、桃花小学校だって助かるのではないか。入学後、残りたい人はそのまま残れば良いと思うので、もう少しその辺の選択肢を柔軟に増やせば良いと思う。バスについてだけは早く答えてあげないと、これから入学する1年生が判断する時にどうしようかと思う。

委員

バスを出す学年が1年生と2年生だけに限定する根拠を聞きたい。このご時世、5年生や6年生だろうと男の子であろうと、大人でも40分かかる道を片道歩かせるとなると、なぜ1年生と2年生だけに限定するのかなど思った。この地域のこの時期にこの学校に通う子たち、とかだったらまだわかるが、それはなぜか。

事務局

先ほども言ったように、決定しているわけではないが、新しく入学する1年生については、体も小さく、体力的にも特に配慮が必要と考え、1年生、2年生ぐらいが対象だと考えた。ただ、そうした場合に、バスの規模や、どれぐらいの回数で運行していくのか等もあるため、そこところは具体的にもう少し検討させていただきたい。確定しているわけではないが、もし出すとすれば、最低限、低学年は必要かなと考えている。

委員

建て替えの間、旧向台小学校の仮校舎に通うことになっても、このグリーンガーデンをそのまま使えるという話があったと思う。仮に授業内でグリーンガーデンに行くことになった時に、この距離を1年生、2年生が歩くことを考えるだけで、授業の前後の時間がとられてしまい、多分2〜3コマ授業が潰れると思う。そうなった時に、1クラス分の人数が乗れるようなバスを1台用意してもらえれば、通学だけに特化せず、有効に使えるのではないかと思う。それも踏まえて、スクールバスというよりは、小学校のバスとして考えていただけないか。

事務局

今のお話は、1年間バスを借り上げるということか。

委員

改築の間の2年半だけだと思う。

委員

関連するのだが、予算的に見れば、新校舎をつくるのにあんなにかかると思えば、随分微々たる経費だと思うので、そういう面でも進めていただきたい。

事務局

今後の課題ということで、検討したい。

関係者

中野本郷小学校の現在の児童数は何名か。

委員

355名である。

関係者

そんなに少ないのか。

委員

桃花は800人おり、また増えてしまうと大変だと思う。

関係者

また増えると思う。もう行かないという声がうちの町会では出ている。だから転校もありか聞いてきてくれと言われた。転校ができないということであれば、どんな手を使うか知らないけれど、行きたくない人は違う手を使うと思う。あの距離歩くといったら、私だって嫌だ。

委員

スクールバスではないが、地域開放型学校図書館は、一般の方も入れるということだが、防犯面はどう考えているのか。

子ども教育施設課長

例えば、入口は学校の入口と完全に分ける。授業時間中は、地域開放型学校図書館の中から学校の中には入れないように、物理的に完全にシャットアウトするように配置する。

委員

放課後は児童も使うと思うが、その時はどういうふうに学校内から入るのか。あるいは、一度外に出るのか。

子ども教育施設課長

運用の仕方はまだ完全に決めていないため、みなみの小学校等の様子を見ながら、いろいろな運用の仕方が可能となるようにしたい。例えば、放課後は学校の図書館と地域開放型学校図書館を一体的に使えるようにするのか、区切ったままなのか、出入口や動線はどうするのか等、どういう形にも運用できるようなしつらえにはする。その中で、校長先生や地域開放型学校図書館の

運営事業者とも調整しながら、その学校の形に一番合う運用の仕方を工夫していく。

委員

警備に関してはどうか。

子ども教育施設課長

警備はキッズ・プラザの事業者や図書館の事業者の他、夜は学校の機械警備があるため、そこは当然連携とりながら、漏れがないよう運用していく。

委員

先生方にあまり負担をかけないようにしたいと思った。

子ども教育施設課長

同じ施設の中に機能が二つも三つもあるということで、校長先生や副校長先生には今までにない負担をかけてしまうが、そこは極力負担にならないようなやり方を十分検討していきたい。

委員

安全面だけは心配なのでお願いしたい。

委員長

ほかにあるか。

—特に発言無し—

議事(3)その他

委員長

予定していた議題は全て終了した。次回の開催日程について、事務局の説明を求める。

事務局

次回は1月29日水曜日の10時から、中野本郷小学校で開催する。

委員長

時期が近づいたら、開催通知を事務局から送付する。本日の推進委員会はこれをもって終了する。